第26回全国街路事業 3ンクール応募資料

平成26年1月

応募者名:栃木県 宇都宮市 建設部 道路建設課 事業の名称:宇都宮都市計画道路事業 3・4・111号 泉ヶ丘線(御幸・岩曽エ区)

実施都市名:栃木県 宇都宮市

事業目的

宇都宮市では、都市内の円滑な交通機能や都市防災機能などを充実させるため、幹線道路の整備を推進している。

本事業区間は、周辺開発等により交通量が増加しているにもかかわらず、地域内生活道路は狭隘で歩道がなく、特にJR 宇都宮線の大原踏切は狭いことから、歩行者・自転車や車両のすれ違いなど、地域住民の生活に支障をきたしていた。

このため、本路線の新設整備において、JR宇都宮線を立体 交差化(アンダー)することで、分断された市街地の安全で円滑 な交通の確保や災害時の緊急車両などの通行を確保し、都市 防災機能の向上を図る目的で整備した。

事業概要

事業名称:宇都宮都市計画道路事業

路 線 名:都市計画道路3・4・111号泉ヶ丘線(御幸・岩曽工区)

事業箇所:栃木県宇都宮市岩曽町、御幸ヶ原町、御幸町

事業延長:L=1, 049m

幅 員:W=16.0m~26.0m(2車線)

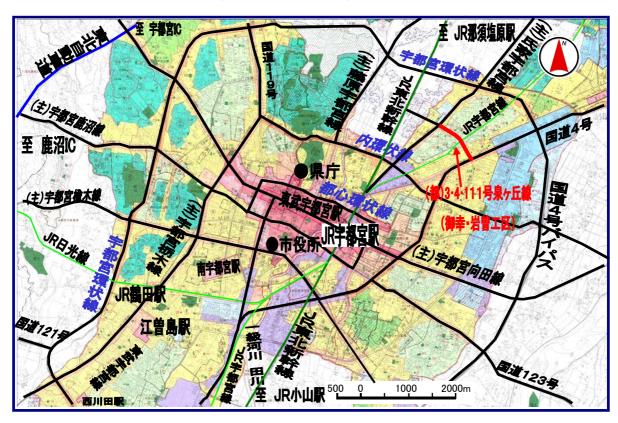
事業費:約86億円

事業実施期間:平成9年度~平成24年度

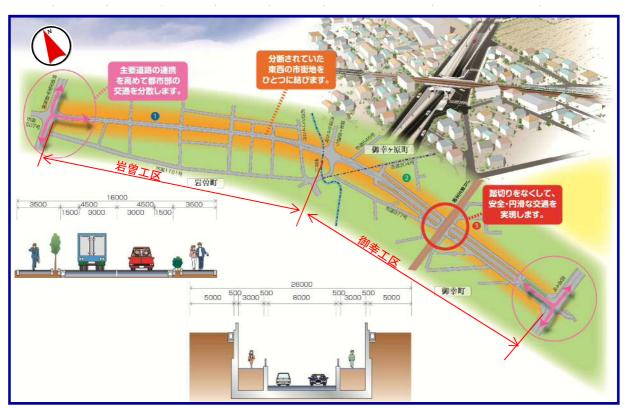
本工区は、宇都宮環状道路と内環状線のほぼ中間に位置し、市内北東部の環状機能を補完する重要な路線であり、国道4号から県道氏家宇都宮線までのJR宇都宮線により東西に分断された地域を結ぶ延長1,049mの新設道路である。

標準道路幅員16m、車道2車線の両側には、植樹桝を含む3.5mの歩道を設けている。

事業位置図



全体図(平面図・側面図・横断図)



泉ヶ丘線(御幸・岩曽工区)の整備効果アピール資料

移動時間比較結果

整備前 5分38秒

整備後 3分47秒

1分51秒短縮

交通量比較結果



〇事業概要

事業名: 宇都宮都市計画道路事業

路線名:都市計画道路3·4·111泉ヶ丘線(御幸·岩曽工区)

事業箇所: 栃木県宇都宮市岩曽町、御幸ヶ原町、御幸町

事業延長:L=1,049m

幅 員:W=16.0m~26.0m

総事業費:8,648百万円

事業期間:平成9年度~平成24年度

〇交通量調査結果

供用前 平成19年11月実測 供用後 平成25年 9月実測

・交通量の推移

泉ヶ丘線

2,507台/12h→7,139台/12h 4,632増

岩曽通り

6,134台/12h→1,962台/12h 4,172減

競輪場通り

15,655台/12h→13,954台/12h 1,701減

「整備効果」

①交通の円滑化

整備により利便性が向上し、整備前に比べ約4.600台/12hの交通量が増加しました。

②渋滞の緩和

競輪場通りなどの平行する路線から交通が転換し、周辺の渋滞緩和が図られました。

③安全性の向上

JR宇都宮線との立体交差化により、踏切を廃止し安全性が向上されました。

④移動時間の短縮

整備により走行性が向上し、JR宇都宮線との立体交差化により、移動時間が約2分短縮しました。

⑤良好な都市空間の形成

街路樹の緑化や、車両用防護柵等の色彩を統一した景観への配慮を行い、良好な都市空間 を形成しました。

「その他の事業効果」

- ・排水性舗装の採用・・・雨天時の視認性向上と車の走行音の低減を図りました。
- ·透水性舗装の採用···歩行者等の通行性や雨水の透水性を確保しました。

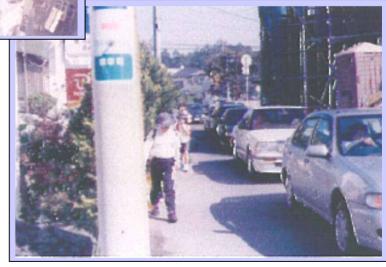
事業前写真 平成9年7月撮影



非常に狭いJR宇都宮線大原踏切



狭隘で歩道がない地域内生活道路



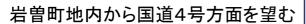
事 **業 後 写 真** 平成25年3月撮影



アンダーから国道4号方面を望む



アンダー(国道4号方面を望む)





地元協力による植樹枡の緑化